

# 供用15カ月後も良好

## バイオアス混合物追跡調査

大成ロテック

大成ロテックは、樹木の主要成分（リグニン）を使った環境配慮型の道路舗装材料「バイオアスファルト混合物」が施工後も良好な供用性を維持していることを確認した。共同研究を行う日本製紙の石巻工場構内で2020年3月に試験施工し、供用15カ月後の追跡

調査を実施。わだち掘れやひび割れなどは発見されなかった。バイオアスファルト混合物は、大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収し成長した樹木の主要成分のリグニンを石油アスファルトの一部と置き換え、舗装内に炭素を固定する。

試験施工では主に重交通道路に適用する密粒度アスファルト混合物（20）のアスファルトと、クラフト製法で木材チップから得た副産物「クラフトリグニン」を容積で10%置き換えた。大成ロテックは混合物の素材から製造までのCO<sub>2</sub>収支が約30%削減できると試算する。

現在は新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の戦略的省エネルギー技術革新プログラムで開発を継続中。今後リグニン使用量の増加やアスファルト混合物製造方法でCO<sub>2</sub>削減に努め、カーボンネガティブな舗装材料の開発につなげる考えだ。



右車線が供用15カ月後の様子  
（大成ロテック提供）